

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の活動をご紹介します冊子です。

野底川小水力発電所 完成間近になりました！

飯田市上郷の野底川で2022年1月に着工した「野底川小水力発電所」(愛称:もりデン こりき君)は、取水設備や発電所建屋が姿を現し、発電所建屋に水を送る試験が行われました。完成間近になった発電所の様子を紹介します。



野底川小水力発電所の様子



発電所の外観。周囲の景観になじむ色合いに



発電所内に設置された水車

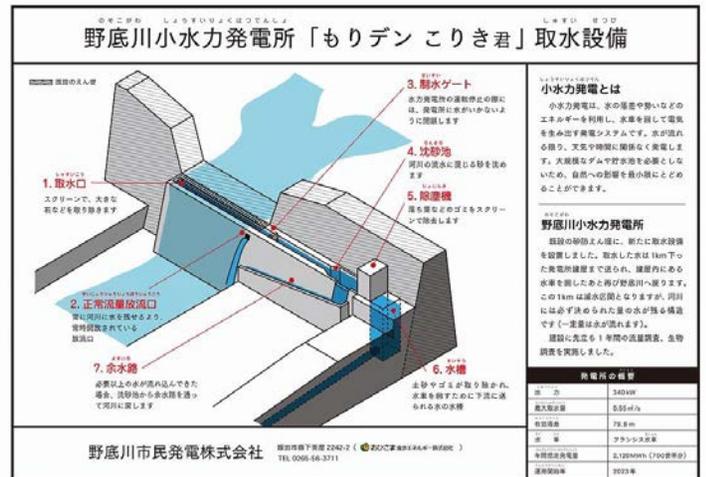


砂防えん堤に設置された取水設備

川の水量が減る2022年末から、河川内に設置する取水口の建設工事が進められました。川の中に構造物をつくるため、河川の水を迂回させ、その上で河川内にコンクリートを打ち上げています。水量が多く、予定よりも工事に時間を要しましたが、2023年3月、すでに設置されている砂防えん堤の壁面の前面に取水口が完成(右図ご参照)。完成後、取水した水に混じるゴミを取りのぞく除塵機等を設置しました。

上記工程の完了後、取水設備から導水管、発電所まで水を流して不具合がないかを確認する通水試験を実施。イタリアの水車メーカーの立会いのもと、試験調整を実施し、夏ごろの営業運転開始を見込んでいます。

また2月には取水設備と発電所建屋、付近の野底山森林公園内に、発電所の案内看板3点を取り付けました。これらの看板では、発電所や公園に来た方に関心をもっていただけるよう、発電所の全体像や仕組み、小水力発電によるエネルギーの地産地消を説明しています。



取水設備付近に設置した案内看板



地域公共再エネ活用事業の認定式・協定書調印式

2022年12月、飯田市役所で「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」に基づく地域公共再エネ活用事業の認定式、協定書調印式が行われました。

野底川小水力発電所は、上郷地域まちづくり委員会との共同事業で、同条例の第22号事業に認定されています。式典には、同委員会の北原重光会長、野底川市民発電(株)の菅沼利和代表取締役が出席しました。

佐藤健市長からは「これまで認定事業の多くは太陽光発電。地域の再エネの新たな可能性を広げた」「地域のために収益を活用する事業で感謝申し上げたい」と評価をいただきました。北原会長からは「野底山森林公園に多くの方が訪れるよう事業拡大を考えている。発電事業の収益を生かしたい」「ゼロカーボン事業として、地元の子どものための良い環境学習の材料になると思う」と期待が寄せられました。



飯田市地域環境権条例の認定式及び協定書調印式



FITに頼らない太陽光発電所

3MW（合計21ヶ所）を新設、再エネ由来の電気を供給

2022年度、経済産業省の補助事業「需要家主導による太陽光発電導入促進補助金」に採択されて、合計3MW（パワコン出力2MW）の太陽光発電の設置に取り組みました。この事業は、固定価格買取制度（FIT）に頼らない発電設備の設置費用の一部を補助するもの。再生可能エネルギーで発電した電気は、小売電気事業者の飯田まちづくり電力（株）を介して、飯田市内の2事業者に供給されます。

新設した太陽光発電所は、飯田市内のほか長野県内、愛知県、岐阜県等で合計21カ所。屋根設置のほか野立て、ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）があり、地元の工事会社へ発注して設置を進めました。

完成後、飯田まちづくり電力（株）では、昼間供給する電力量に占める太陽光発電の割合が大幅に上昇。市場から購入する電力量が減ったことで、仕入れ価格を抑え、供給する電気に占める再エネ比率を高めることができました。



補助事業スキーム図 (補助元のJPEA太陽光発電推進センターサイトより転載)



企業の屋根に設置したパネル (飯田市内)



ソーラーシェアリング発電所 (愛知県内)



野立て発電所 (長野県内)

自治体の地球温暖化防止計画策定の支援事業

2023年度も、2050年カーボンニュートラルに向けた自治体の計画づくりを支援するコンサルティング事業に取り組んでいます。

現在は飯島町で、地域全体の脱炭素化を目指す地球温暖化防止計画案（区域施策編）づくりのため、太陽光発電や小水力発電の導入調査、省エネ法対象事業者のヒアリング、小中学生向けアンケート調査等を実施中。

このほか長野県内の複数の自治体で実施される計画策定事業のプロポーザル（企画提案）へ参加予定です。

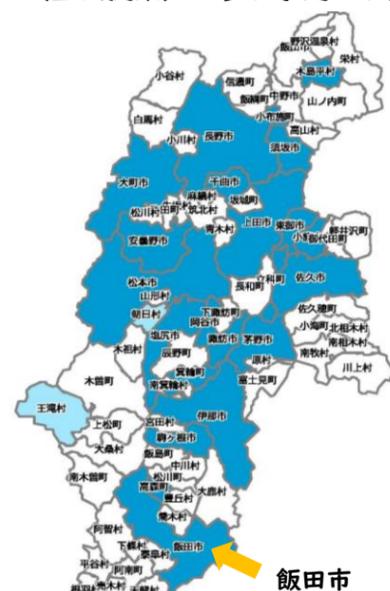
おひさま進歩エネルギーは2016年度から、地球温暖化防止実行計画策定事業を始めて、自治体の脱炭素化を支援してきました。

2020年、国の目標として2050年カーボンニュートラル実現が示されて、地方自治体でも地球温暖化防止実行計画の策定・実行が強く求められるようになりました。特に「区域施策編」は、住民や企業、行政が一体となり地域全体で脱炭素化を目指す計画です。

二酸化炭素排出量の現状把握や将来推計、建築物等のエネルギー効率化や再生可能エネルギーの最大限の導入、森林吸収対策など求められる範囲が広く、おひさま進歩社のような専門的知見を求めて、近隣の市町村から相談が相次いでいます。

長野県内自治体の区域施策編の策定状況は、78自治体中25(策定率32%)。計画づくりが進んでいない自治体が半数以上あり、引き続き支援を続けていきます。

2022年度受託実績
長野県喬木村： 地球温暖化防止実行計画策定業務（事務事業編）
長野県高森町： 地域脱炭素化移行・再エネ推進交付金事業計画書等作成業務
長野県飯島町： 地球温暖化防止実行計画策定業務（区域施策編）



長野県内の区域施策編策定状況 (環境省サイトより。策定済み自治体は濃い青色表示)

太陽光発電の売電益を活用した環境学習事業

飯田市役所庁舎の太陽光発電事業

2015年に新築された飯田市役所庁舎屋根には、「信濃の国おひさまファンド」を活用して太陽光パネル（184kW）が設置されています。この売電収益の一部を生かして、毎年おひさま進歩エネルギーでは、地域の皆さんを対象に環境学習事業を実施しています。

2023年3月、親子向け講座「宇宙と地球のふしぎ～おうちで地球防衛隊～」を、飯田なかぎこ子どもの森公園で開催された「もりもり文化祭」で行いました。デジタル地球儀「スフィア」を使って、太陽系の惑星や地球の気象現象、地球温暖化の現状を視覚的に伝えることができました。

また2023年5月には、著書「人新世の『資本論』」で知られる斎藤幸平先生（東京大学准教授）を迎えて、講演会「気候変動と地域が持続するための『エネルギー自治』」を飯田勤労者福祉センターで開催しました。経済成長を追い求める資本主義的考えから意識を変え、ボトムアップで社会の仕組み自体を見直す必要があること、当事者でなくても「共事者」として社会課題へ関心を持つことの大切さが示されました。



講座「宇宙と地球のふしぎ」(3/19)



斎藤幸平先生講演会 (5/27)

長野県大町市の太陽光発電事業

長野県大町市には「みんなとおひさまファンド」事業で太陽光発電所4ヶ所（合計2MW）が設置されています。この事業の売電益による地域貢献として、発電所が通学区内にある大町東小学校へ、2018年から図書購入費（10万円）の寄付を続けています。

購入する本選びは学校にお任せしていて、2022年度は小説、児童書、絵本など合わせて73冊を購入いただきました。図書館には、寄付をもとに購入した本でおひさま文庫コーナーが設置されています。購入された本は、合計で406冊になりました。

同校の図書委員会の皆さんから、毎年手書きのお礼状を頂いています。古くなった本を新調したり、図鑑や児童に人気の書籍の購入に充てられて、子どもたちと本の新たな出会いに繋がれば嬉しいです。



大町東小のおひさま文庫

おひさま進歩NEWS

野立て太陽光発電所の草刈り作業

おひさま進歩エネルギーの太陽光発電は、主に公共施設や企業、住宅の屋根に設置していますが、地権者から依頼を受けて遊休地に設置したり、地元事業者と連携して設置した野立て発電所では、草刈り作業が必須になります。

5月中旬、飯田市内の発電所2カ所の草刈りを実施。長野県大町市の発電所4ヶ所（合計2MW）や、昨年新設した県外の非FIT発電所は地元業者へ委託しています。草が伸びて発電量に影響したり、近隣の迷惑にならないように管理していきます。

事務所の断熱対策で内窓を設置

2023年1月、事務所の断熱対策で内窓を設置しました。木工製作の技術をもつ社員が、内窓のベースとなる木枠を手づくり。内窓フレームは既製品を買い、窓サイズに合わせてポリカーボネート板を切ってはめ込みました。寒い日でも室内はぽかぽか。室内気温の変動が減って、断熱効果を実感しました！

高効率空調機器へ更新

2023年4月、事務所の古い空調設備を更新しました。「長野県中小企業エネルギーコスト削減助成金」を活用して、経費の2/3を補助でまかないました。寒冷地用高効率空調機（ズバ暖）に更新したことで省エネ化を進めつつ、稼働音も減って快適に。操作画面では、消費電力量も表示できるようになりました。



飯田山本おひさま発電所の草刈り作業



事務所の内窓をDIY設置



大会議室に設置した高効率空調

2022年10月に開校した飯田自然エネルギー大学(第4期)は、毎月1回ペースで授業が続いています。

第7回授業(5/20-21)のテーマは木質バイオマス事業。20日は自然エネルギー財団・相川高信先生を迎えて「地域エネルギーシステムの転換に木質バイオマスが果たす役割」をテーマに座学、ワークショップで学び、翌21日の現地研修では伊那市を訪問。伊那市職員から「50年の森林づくりビジョン」について説明を受けた後、地域産材を製材している(株)有賀製材所、薪ストーブ販売に取り組む(株)ディーエルディー社を視察しました。



木質バイオマス現地研修(伊那市)

■おひさまスタッフ紹介

4月から新たに社員1人が加わりました。北見幸子は東京都在住で、主にリモート勤務で自治体の計画策定支援プロジェクトを担います。北見は飯田自然エネルギー大学3期生で、飯田市内のNPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師会員でもあります。

長年、飯田市へ通う中で先進的な環境施策と市民の環境意識に関心を持ち、エネ大卒業時には論文「なぜ、飯田市では、市民の自然エネルギーへの意識が特別高いとも思えないにもかかわらず、おひさま発電が普及したのか？」を執筆。おひさま進歩エネルギーの事業について、2004年の創業以降、事業モデルの変遷を6段階に分けて分析しています。論文はおひさま社HPで公開しているので、ぜひご覧ください。

<https://ohisama-energy.co.jp/2022/12/23/enedai3th-k-paper/>



新たに加わった北見

おひさまエッセイ

当社事務所の廊下壁には、カラフルな付箋が張られた模造紙が掲示してあります。今年の事業目標策定に併せて作りました。

模造紙には若い社員のシルエットが描かれています。そこに社員ひとりひとりが付箋に書き込んで貼り付けます。シルエットの内側上半身には「自分がこの会社にいる間に実現したいこと・自分が生きている間に実現したいこと」が書いてあります。平和な世界、循環型の仕事・暮らし、趣味に生きる、子供や孫との幸せな暮らし、などなどです。下半身には、「今年一年で実現したいこと」が書いてあります。迅速な決断、環境学習を通して地域を見直す、残業を減らす、運動の継続、蜂の数を増やす、などなど。シルエットの外側は「内側にかかれたことを、支援しようとする行動」を書いています。パソコンの使い方を広める、面白い本を紹介する、山の会にみんなで参加する、など。

毎日廊下を歩く時に目にします。ゆっくり読み込む時があります。みんなが書いたことが実現できるだろうか、自分が書いたことを実行しているだろうか、と思いながら。一つでも多くのことが実現できるよう、多くの方と力を合わせていきたいものです。

おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 菅沼利和



「卒FIT電気」を買い取ります!

飯田まちづくり電力(株)では、FIT終了後の電気を対象に、お得な買取価格を設定しています。

同社の家庭向け電力プランも契約いただいた場合、買取価格が「10円/kWh」となり、契約なしの価格「9円/kWh」となり1円高くなります。

買取エリアは中部エリア内で長野県外も対応しています。詳しくは、同社へお気軽にご相談ください。



飯田まちづくり電力株式会社

〒395-0044 長野県飯田市本町1丁目15番地

TEL:0265-53-0130 <http://iiden.co.jp/>